

# 令和3年度大分県学力定着状況調査ならびに

## 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果と分析について

由布市教育委員会

本年度、4月20日に実施された「令和3年度大分県の学力定着状況調査」ならびに、5月27日に実施された「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせいたします。

### 1 学力調査結果の分析

#### (1) 小学校における学力の状況

「令和3年度大分県の学力定着状況調査」<図1参照>

小学校では、第5学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○5年生では、国語の知識と活用、算数の知識と活用で「目標値<sup>※注1</sup>」を超えました。

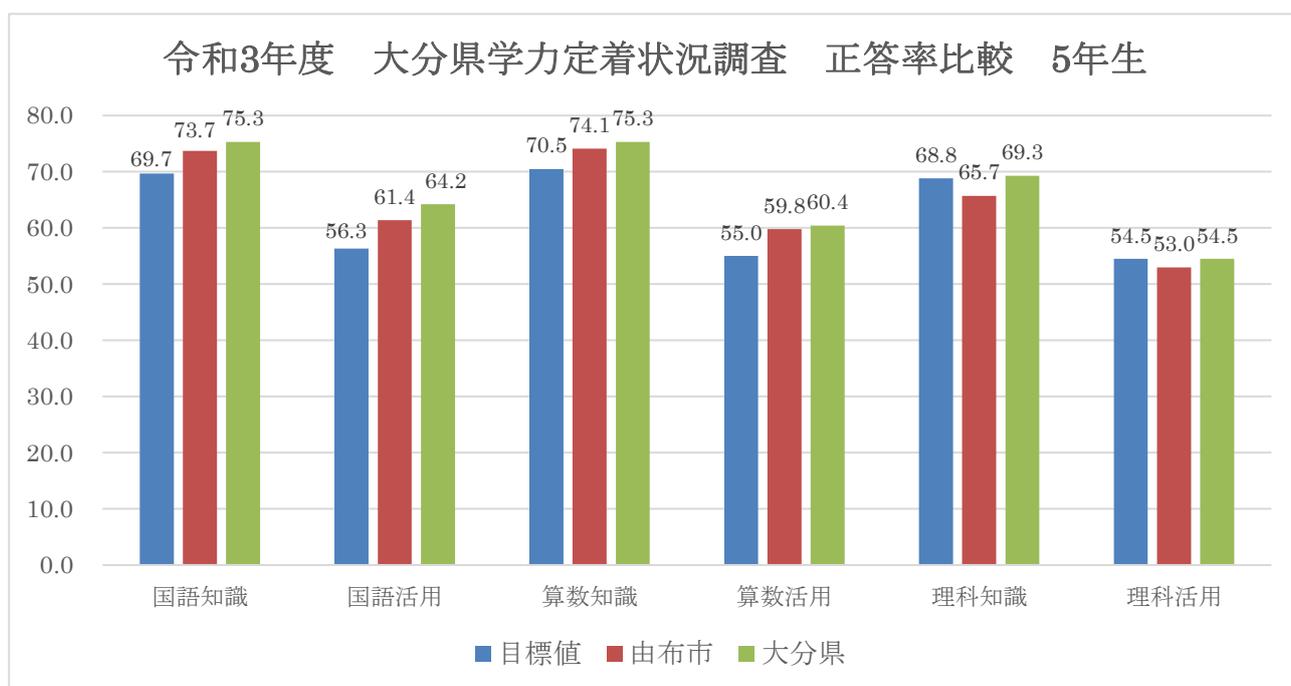
○理科については、知識・活用ともに目標値を超えていません。昨年度に引き続き理科が課題です。

○県の正答率を超えた教科がなく、状況的には、一昨年度(R1)より下がっています。

※注1 学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。

多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

<図1> 教科別正答率「小学校5年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「令和3年度全国学力・学習状況調査」＜図2参照＞

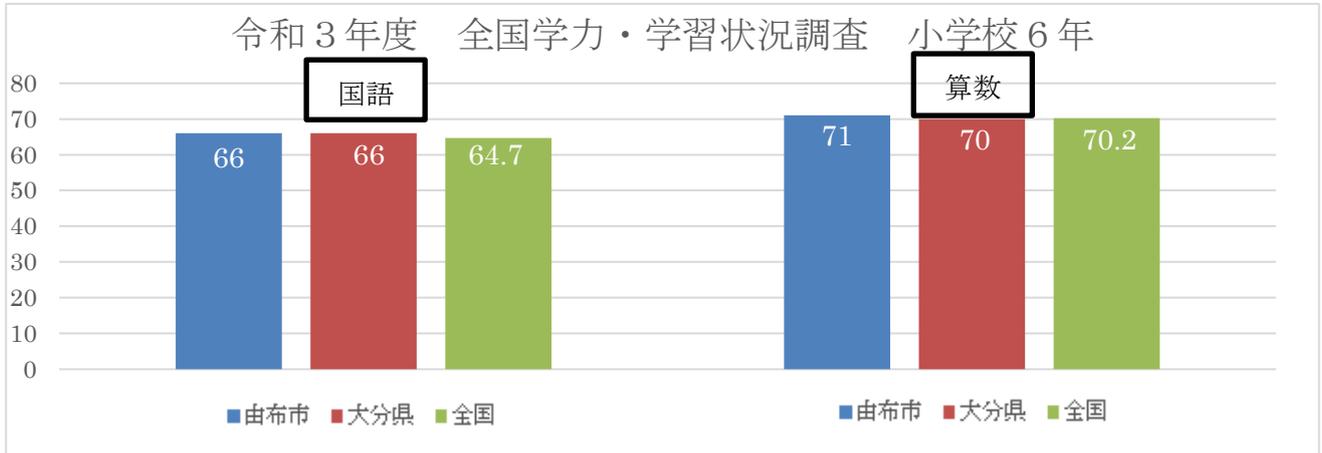
小学校では、第6学年で、国語・算数の調査が実施されました。

○6年生では、国語、算数ともに全国値を超えました。

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の各観点とも、全国平均を上回っています。

その中でも特に、国語では「書くこと」、算数では「測定」で好成績をあげています。

＜図2＞ 教科別正答率「小学校6年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「小学校における学力向上計画」

① 小学校低学年から引き続く学力向上

由布市においては、小学校1年生から将来を見据えて、子どもに学習の技能をつけていくということを目指してやってきました。その結果、授業における話し合い活動（協働的な学習）がうまくなされるようになり子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。一方で、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、算数における計算力（スピード）をつけることについては依然として課題があり、学力調査の当該学年だけに対策をとるのでなく、組織的・計画的な取組を進めているところです。

② 学力調査の結果分析をもとに授業改善を

＜国語＞

○目的や意図に応じて、理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

▲目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する。

＜算数＞

○条件に合う時刻を求める。データを二次元表に分類整理する。

▲速さを求める除法の式と商の意味を理解している。

＜課題解決に向けて＞

文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが大切です。具体的には、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕組みや巧みな叙述などに着目して要約できるように指導していかなければなりません。

速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにするためには、単位当たりの大きさの意味と表し方について確認する活動。さらに、単位当たりの大きさを用いて比べ説明し合う活動を位置づける必要があります。また、これらの課題解決に向けた補充学習の取組や指導法工夫改善教員・指導教諭・授業力向上アドバイザーといった学力向上に特化した教員からも発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

## (2) 中学校における学力の状況

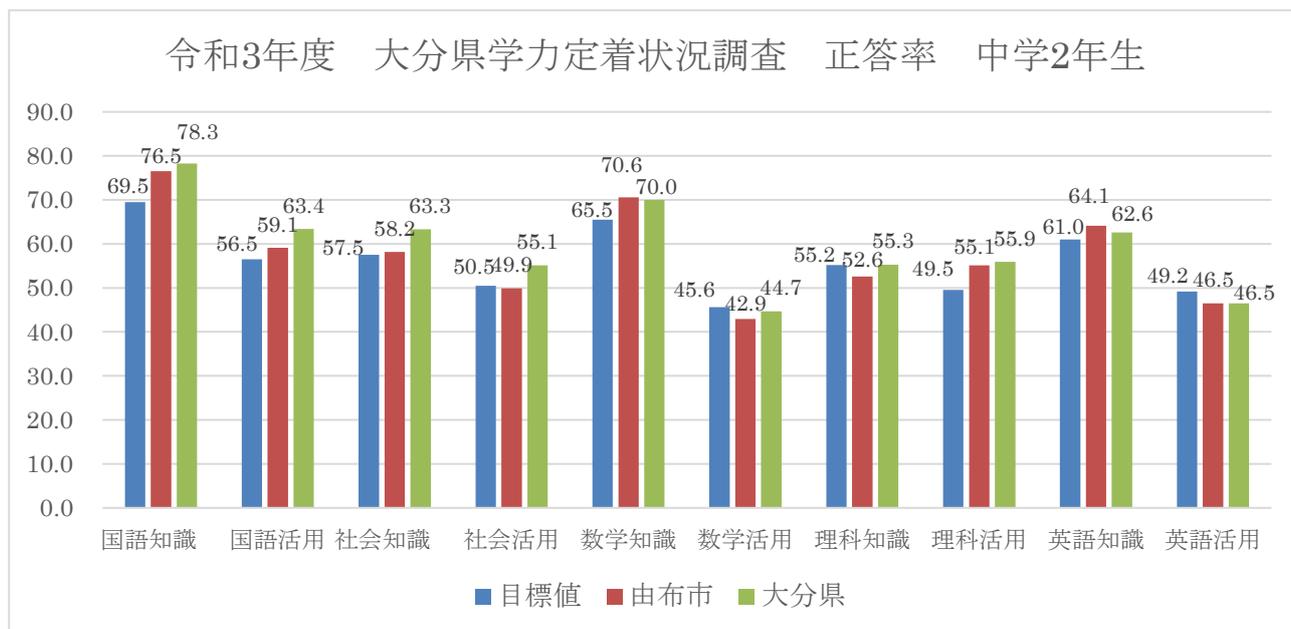
「令和3年度大分県の学力定着状況調査」＜図3参照＞

中学校では、第2学年で国語・社会・数学・理科・英語の調査が実施されました。

○2年生では、国語の知識と活用、社会の知識、数学の知識、理科の活用、英語の知識で「目標値※注1」を超えました。

○数学の知識と英語の知識は県の結果も超えていますが、活用問題の正答率は県の結果を下回っているため、さらに取組を進める必要があります。

＜図3＞ 教科別正答率「中学校2年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県

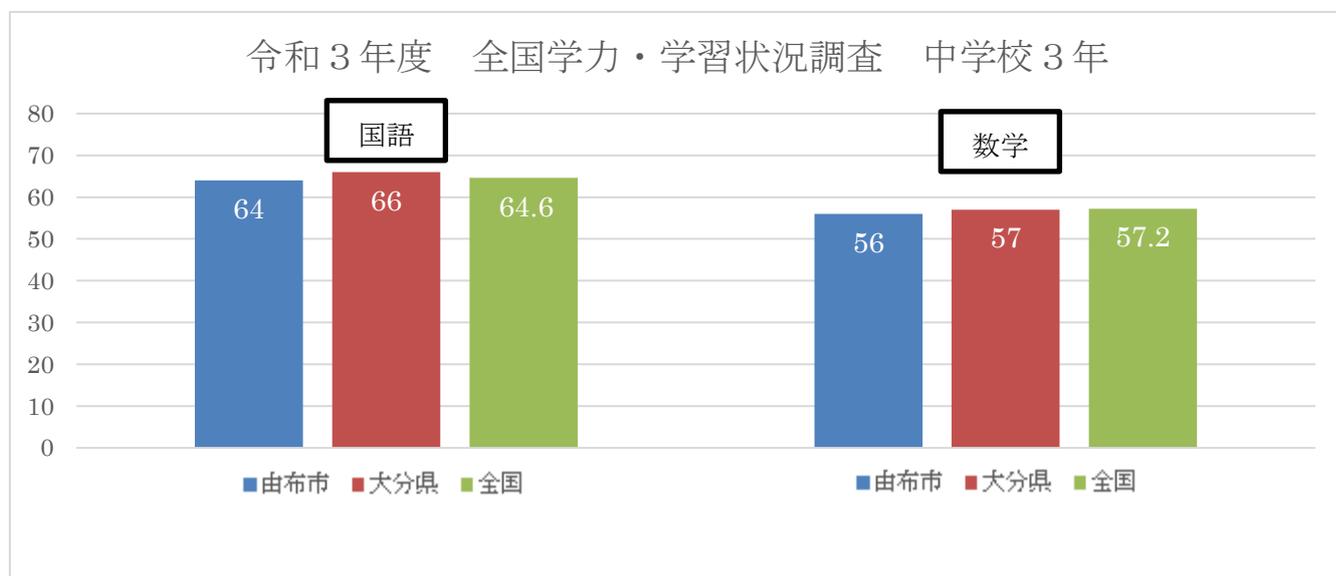


「令和3年度全国学力・学習状況調査」＜図4参照＞

第3学年で、国語・数学の調査が実施されました。

○国語は県や全国の値を上回り、数学は若干下回りましたが、ほぼ県や全国と同様の結果でした。

＜図4＞ 教科別正答率「中学校3年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



## 「中学校における学力向上計画」

### ① 小学校から引き続く学力向上

小学校の部分でも記述したとおり、小学校から引き続き中学校へ学習の技能をつけていくということが今一番の課題です。

授業における話し合い活動（協働的な学習）の充実は、中学校の授業でも活用されており、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

小学校と同様、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、数学における計算力（スピード）をつけることは、現状では改善できていません。このことは、小学校段階で解決すべき問題であり、それによって中学校の改善が見られると考えます。

### ② 学力調査の結果分析をもとに授業改善を

#### <国語>

○書いた文章を互いに読みあい、文章の構成の工夫を考える。

▲場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。

#### <数学>

○与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができる。

▲事柄が成り立つ理由や判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

#### <課題解決に向けて>

文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える力を身に付けるために、文章の特徴を把握するとともに、これまでの読書経験や体験などを踏まえて読むように指導する必要があります。具体的には、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて検討するように指導していきたいと考えています。

事柄が成り立つことを説明するためには、何を示せばよいかを明らかにし、着目すべき性質や関係を見いだす活動を取り入れ、根拠を明確にして筋道を立てて説明することができるように指導することが大切です。説明の基本形等を活用しながら、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実させていきます。中学校でも、小学校同様、これらの課題解決に向けた補充学習の取組や指導教諭・授業力向上アドバイザーといった学力向上に特化した教員からも発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

## (3) 今後の課題

\* 県調査および国調査から考えられる由布市共通の取組

- |                |
|----------------|
| ○学校全体で統一した取組   |
| ○授業改善の充実       |
| ○家庭学習・補充学習の丁寧さ |

\* 上記3点の取組を今後も実施するとともに、小・中学校の連携や学年・教科を超えた組織的な学力向上の取組も行っていきます。

授業改善と補充学習の取組をいかに充実させていくかが重点であると捉えています。

## 2 意識調査結果の分析

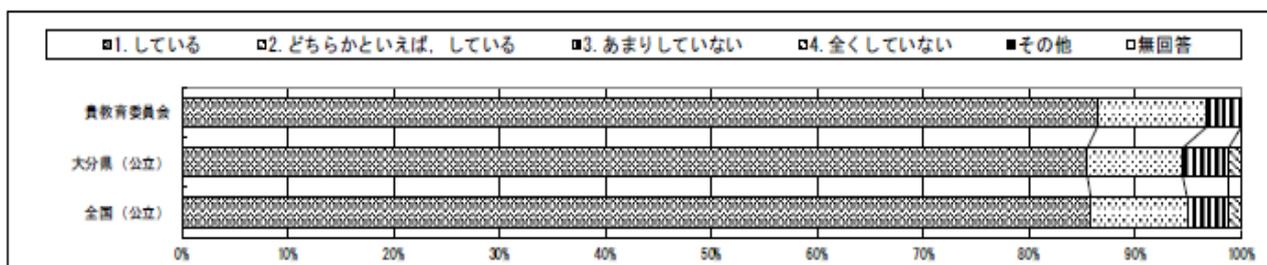
### (1) 全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

全国学力・学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも、学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。

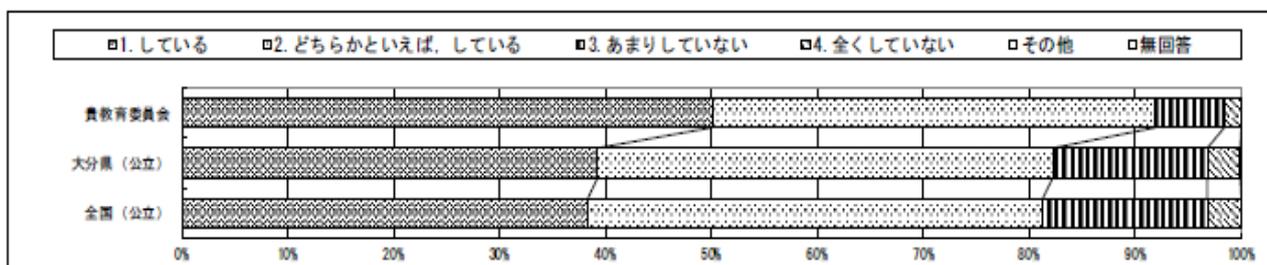
#### 「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」 小学校6年

##### ① 基本的な生活習慣について

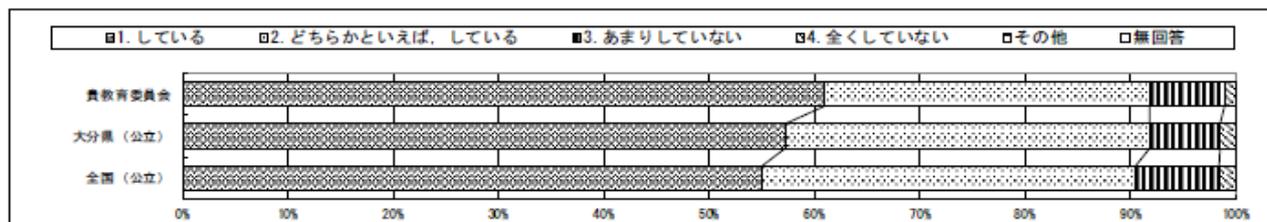
Q1 朝食を毎日食べていますか



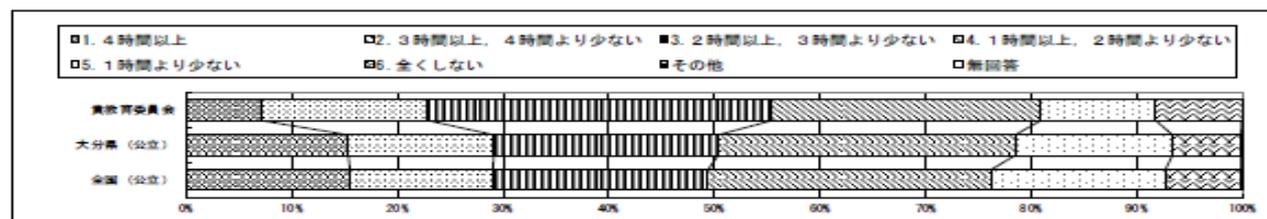
Q2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



Q3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか



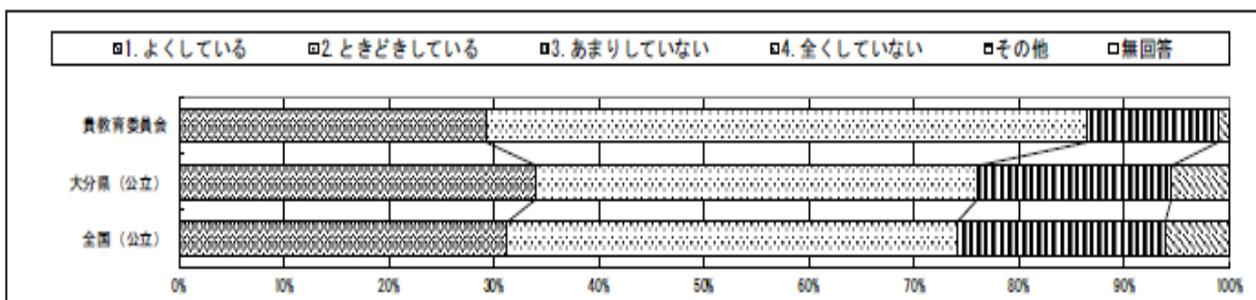
Q4 普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(携帯含む)をしますか



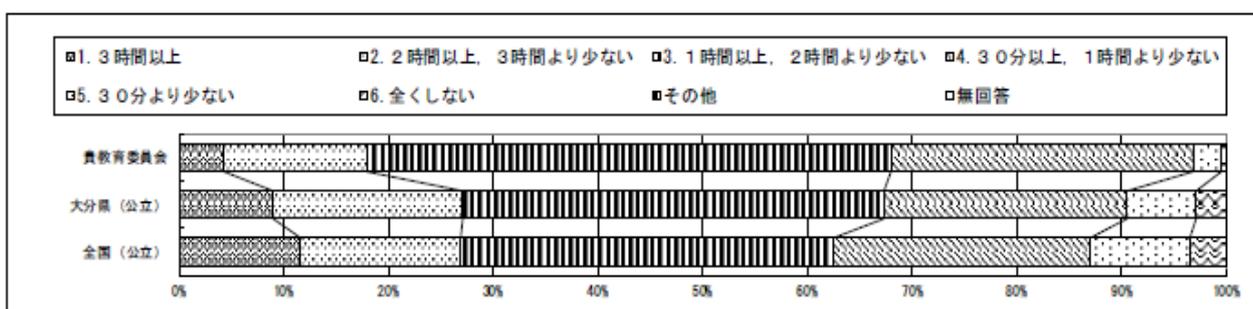
\*Q2 就寝時刻が定時である児童の割合は2年前よりも高くなっています。Q1, 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がなく平年通りです。Q4 1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますかについて、2時間以上と回答した児童の割合が全国値より高いです。このことは、学校を通じて啓発活動をしていく必要があると考えています。

② 学習習慣について

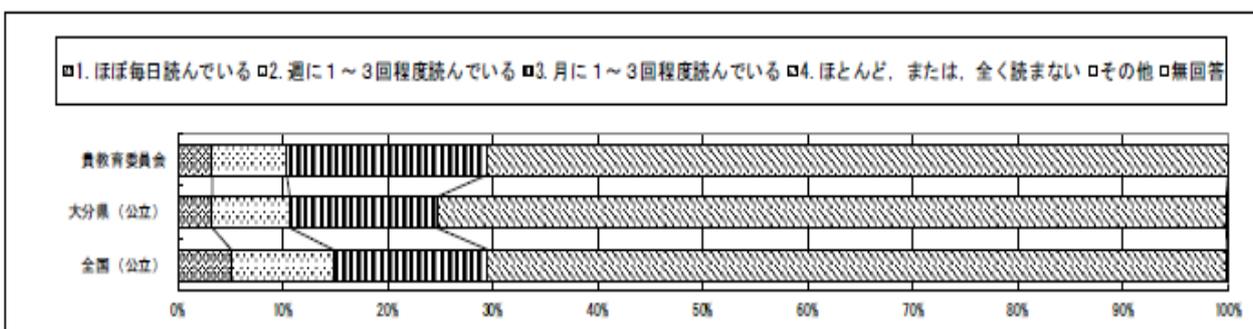
Q5 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



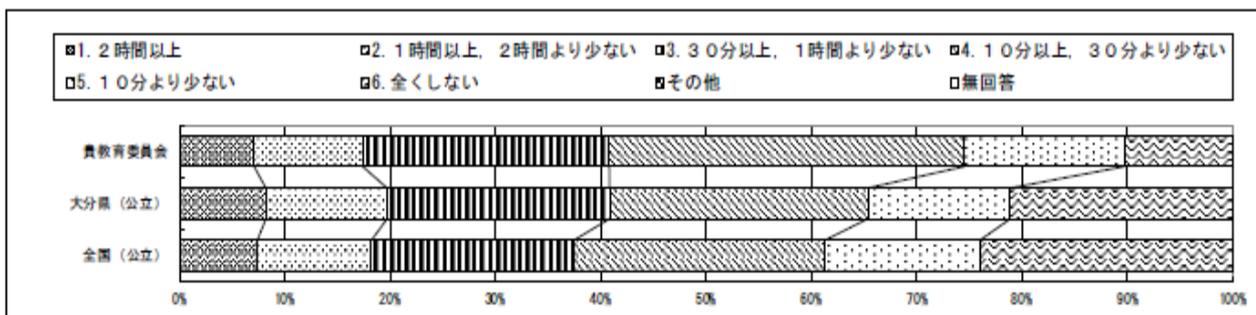
Q6 学校の授業時間以外でどのくらい勉強しますか (1日当たり 月～金)



Q7 新聞を読んでいますか



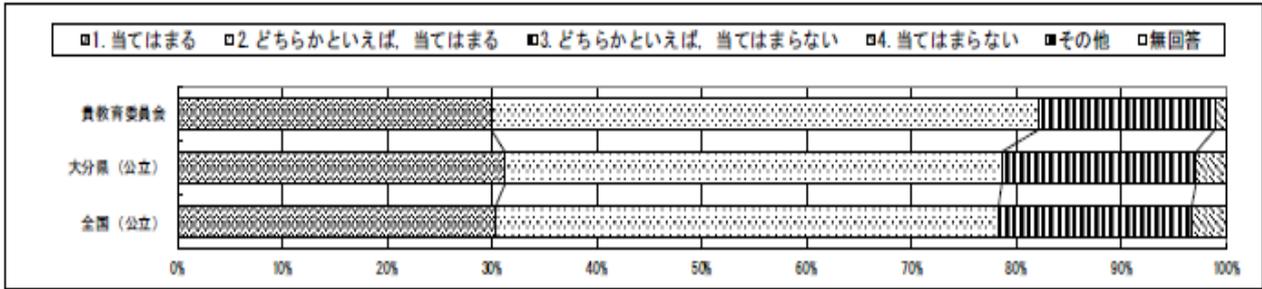
Q8 一日当たりどのくらい読書をしますか。



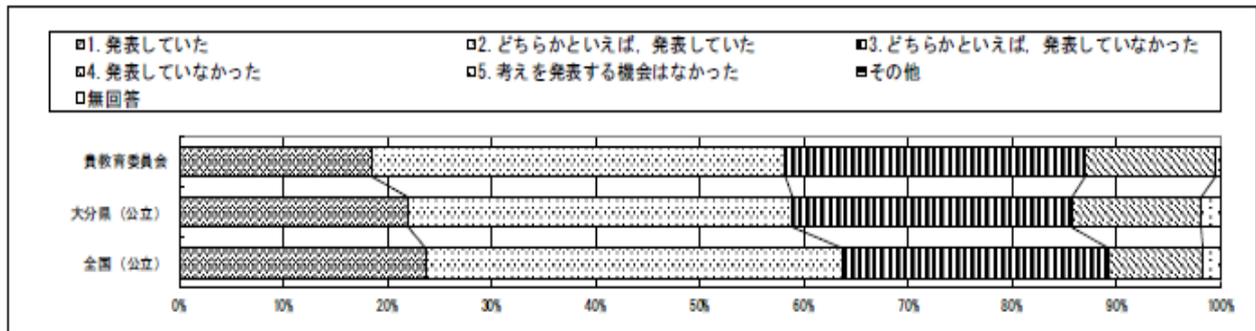
\* 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」割合は、全国や県より高いです。ただ、2時間以上学習する児童が少ないことがわかります。「平日に読書する」割合は、県や国と比べて同程度です。しかし、「定期的に新聞を読むこと」の割合が2年前よりも低くなっています。授業等で新聞を活用する活動に今後は取り組む必要があると考えています。

③ 授業改善について

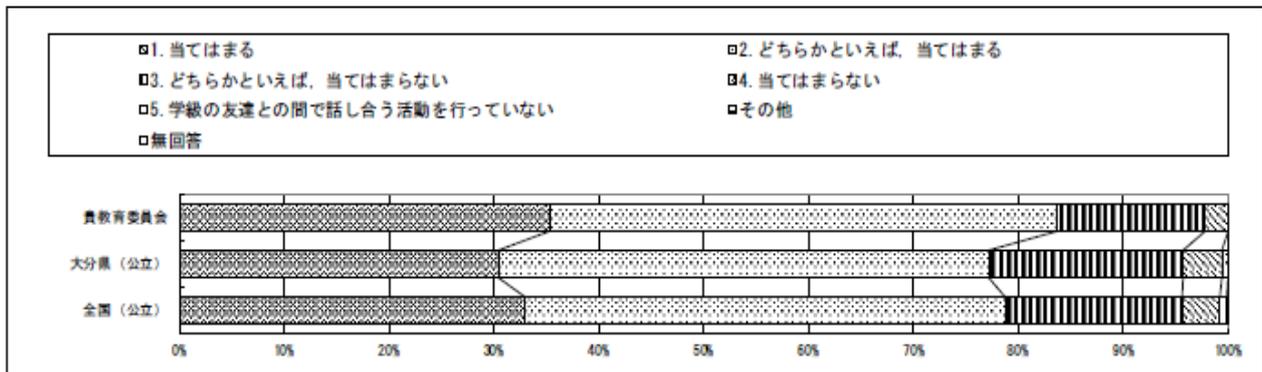
Q 9 5年生までに受けた授業の中では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q 10 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



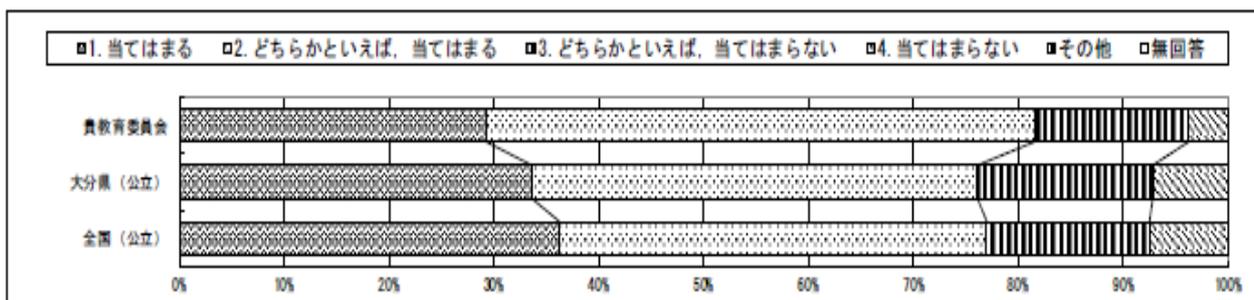
Q 11 学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



\* 「授業の中で課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「話し合いの活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」の割合は、全国や県よりも高いです。毎時間の授業や由布学を通して課題発見・解決の授業展開を意識して取り組んできたからです。  
「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」の割合が、全国や県をやや下回っていたので、今後の授業改善の重点にしていきます。

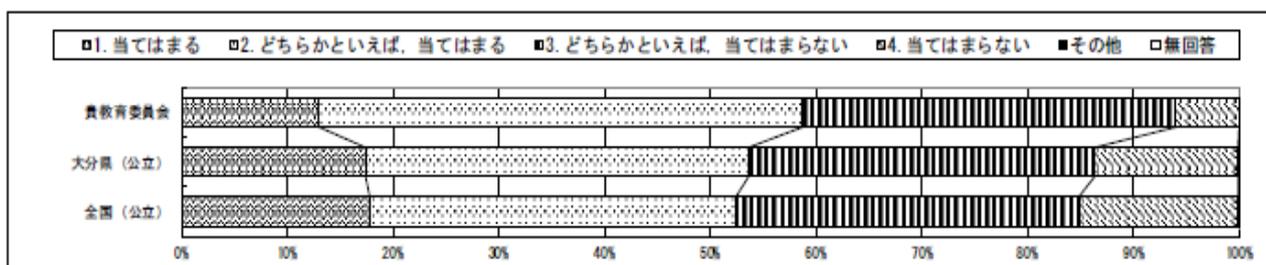
④ その他の項目について

Q 1 2 自分にはいいところがあると思いますか。



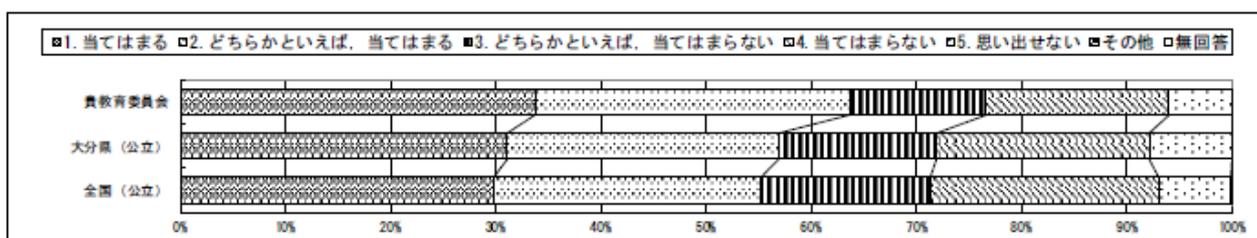
\* 「自分にはいいところがある」の調査から、自分の良さを感じることができている割合は高い。

Q 1 3 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

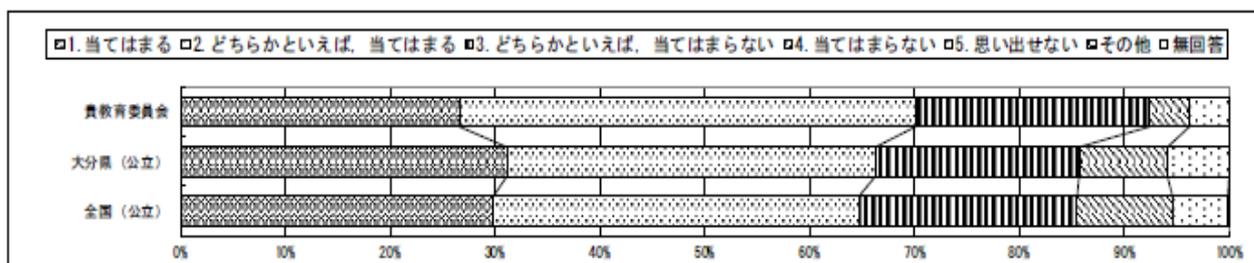


\* 2年前に比べ肯定的回答の割合が低くなっています。コロナ禍で地域行事も減少していることが要因のひとつと捉えています。地域との関わりについて総合的な学習のあり方やコミュニティスクールの取り組み方を見直していく必要があります。各校で再度由布学の目標を確認するとともに、地域の課題発見・解決の学習や魅力発信の取組をしていきます。

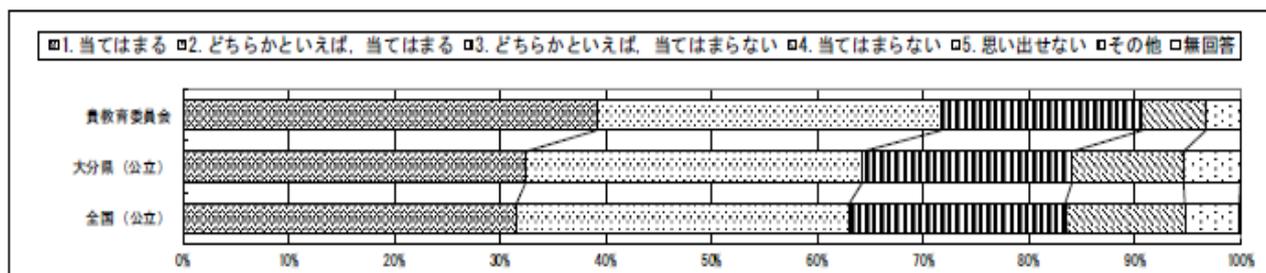
Q 1 4 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。



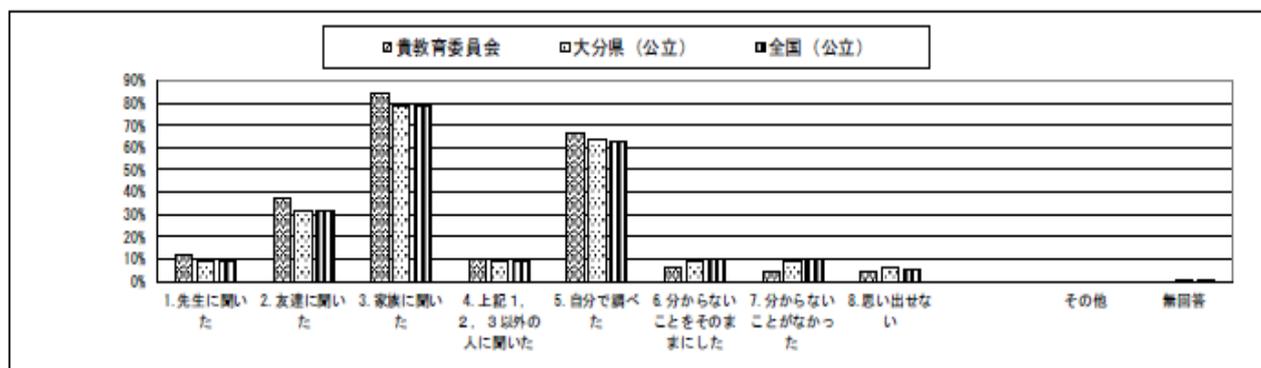
Q 1 5 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。



Q16 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。



Q17 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか。

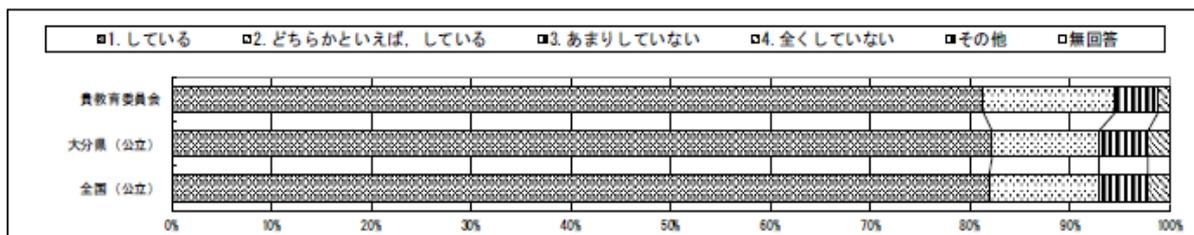


\*新型コロナウイルスに関する質問項目として新たに加わったものです。休校期間中、勉強について不安を感じていた児童は約6割。全国や県よりも高いです。ただ、「この期間中も計画的に学習に取り組んだ」「規則正しい生活を送った」、「学校からの課題で分からないことがあった場合においても、家族に聞いたり、自分で調べたりして解決した」児童の割合は全国や県を上回っています。コロナ禍の中でも、生活リズムを崩すことなく、家庭学習もこれまでと変わらず取り組むことができます。

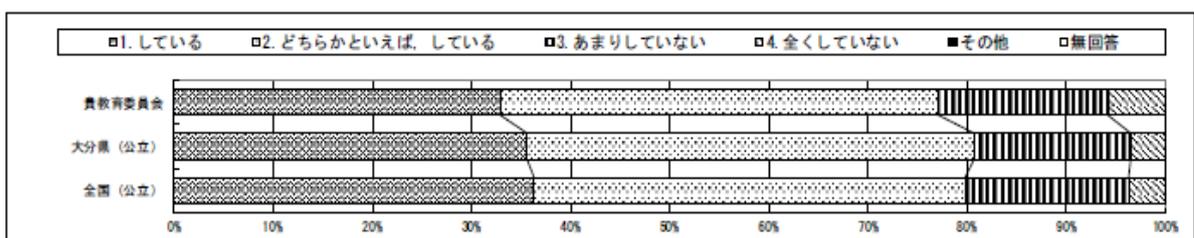
## 「中学校における学習習慣・生活習慣の状況」 中学校3年

### ①基本的な生活習慣について

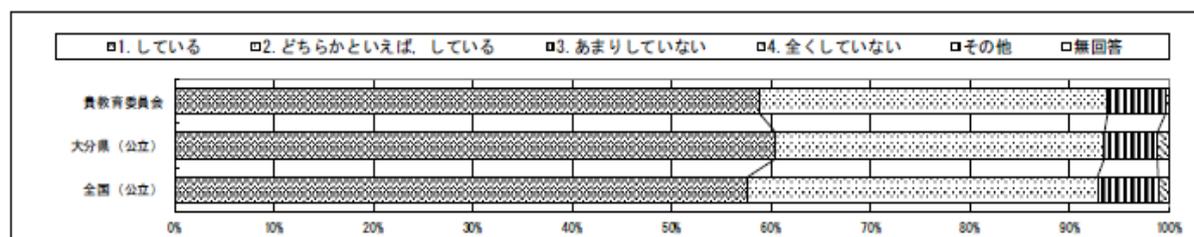
Q1 朝食を毎日食べていますか



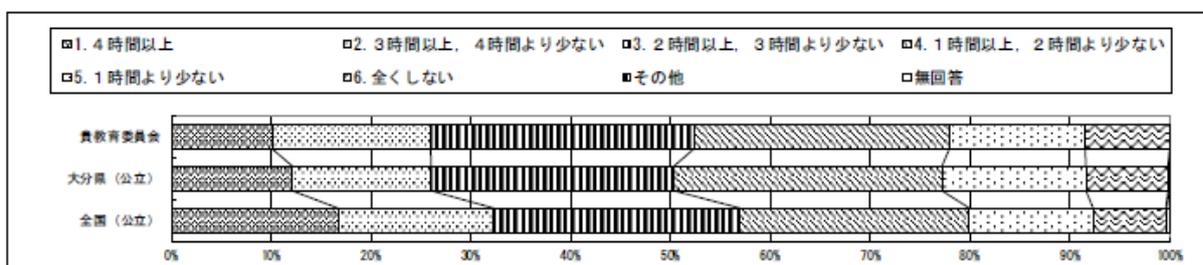
Q2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



Q3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか



Q4 普段 (月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム (携帯含む) をしますか



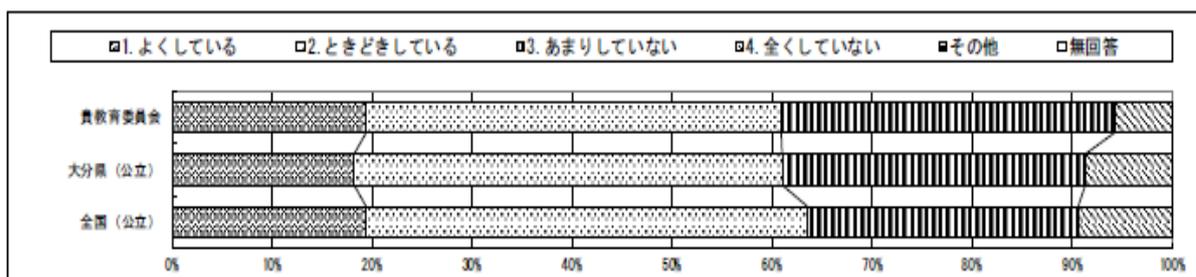
\*Q1～3 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がなく平年通りです。

Q4 1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますかについて、2時間以上と回答した児童の割合が全国値より低いものの、5割以上が該当します。

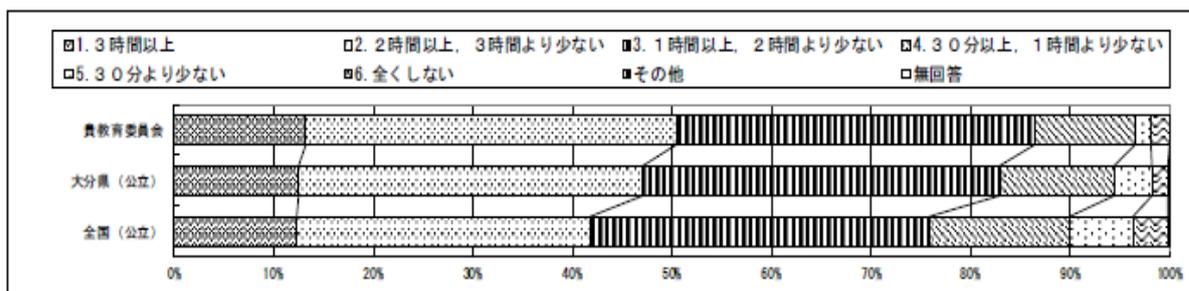
このことは、学校を通じて啓発活動をしていく必要があると考えています。

②学習習慣について

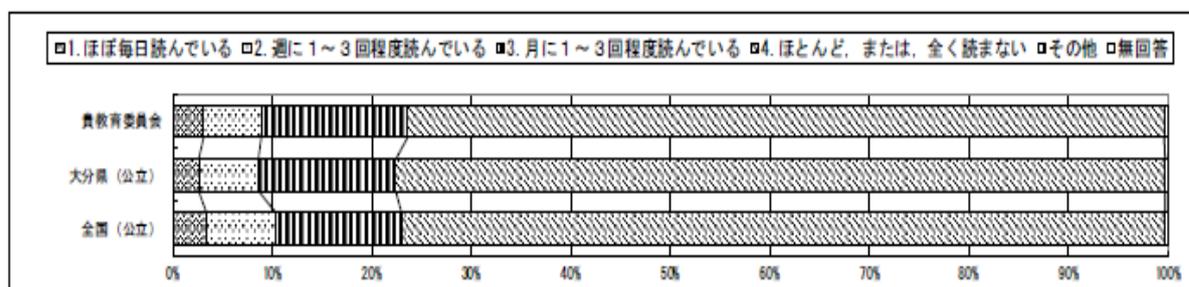
Q 5 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



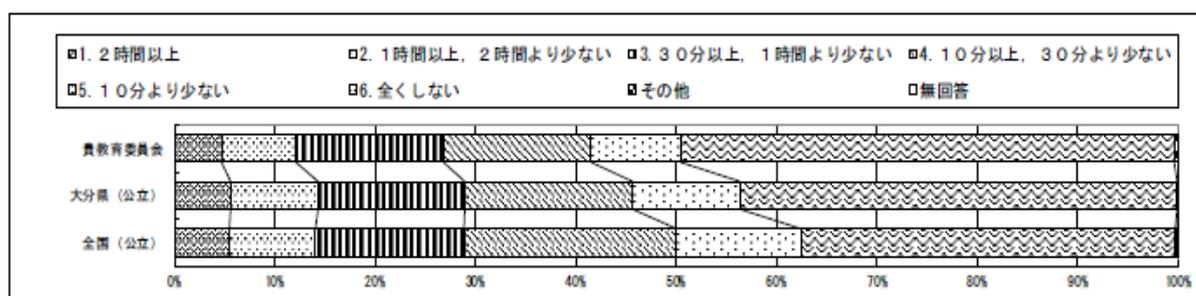
Q 6 学校の授業時間以外でどのくらい勉強しますか (1日当たり 月～金)



Q 7 新聞を読んでいますか。



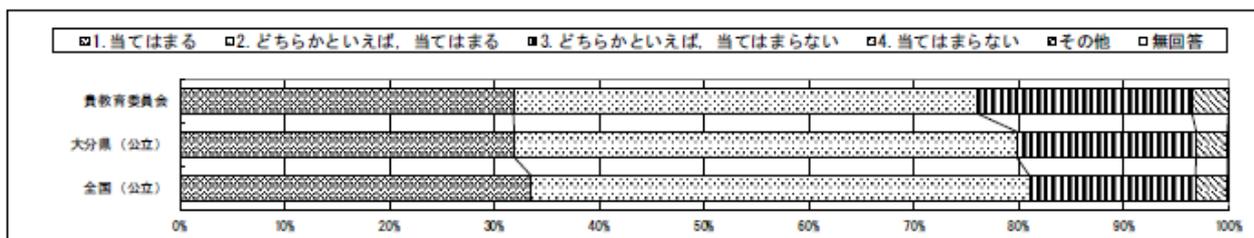
Q 8 一日当たりどれくらい読書をしますか。



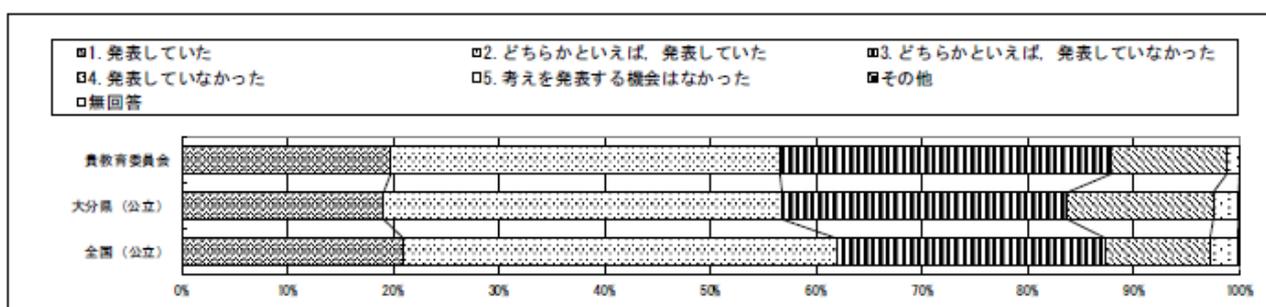
\* 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」割合は、全国や県と同程度です。2年前に比べると「計画を立てて勉強をしている」「2時間以上勉強している」生徒の割合が約10%高くなりました。「平日に読書する」割合は、県や国と同程度です。しかし、「定期的に新聞を読む」割合が2年前よりも低くなっています。今後の改善点にあげていきます。

③ 授業改善について

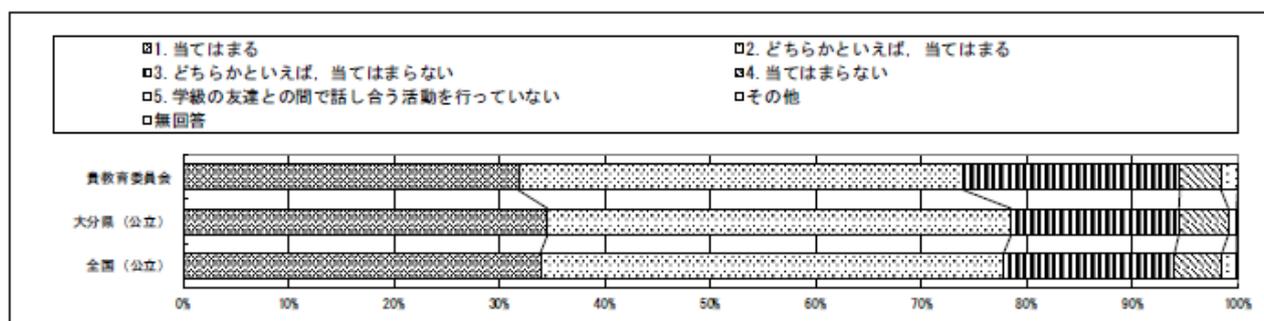
Q 9 2年生までに受けた授業の中では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q 10 2年生までに受けた授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



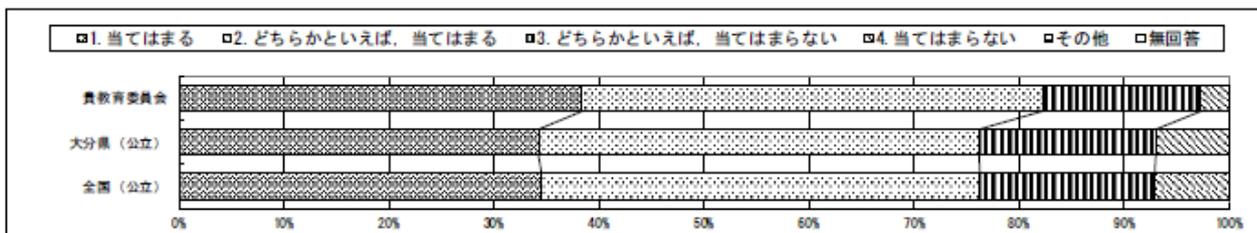
Q 11 学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



※Q9～11の割合は、全国や県と同程度です。どの項目も、「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、授業の中では重要な要素となります。「授業の中で生徒自身が課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む場面」「話し合いの活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う場面」を毎時間の授業や由布学の授業の中で設定していき、今後も授業改善の重点にしていきたいと思います。

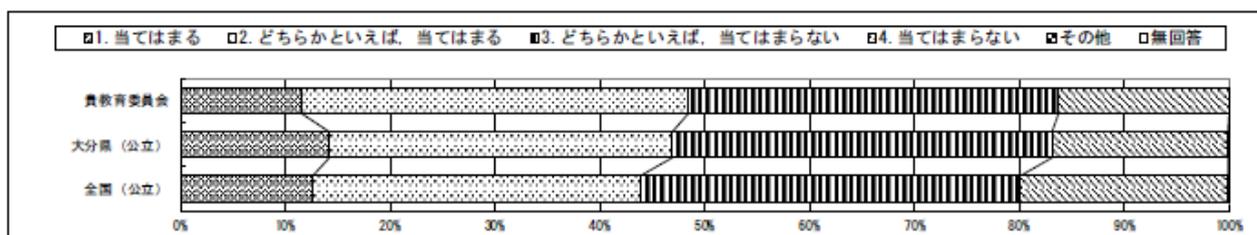
④ その他の項目について

Q 1 2 自分にはいいところがあると思いますか。



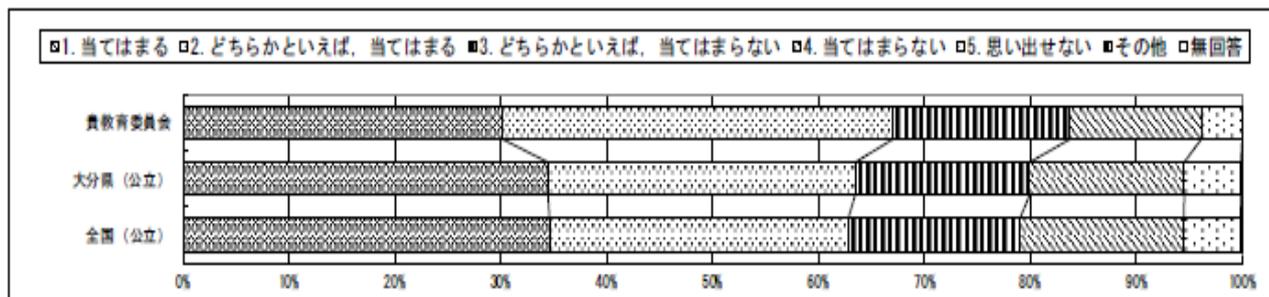
\* 「自分にはいいところがある」の調査から、自分の良さを感じることができている割合は高い。

Q 1 3 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

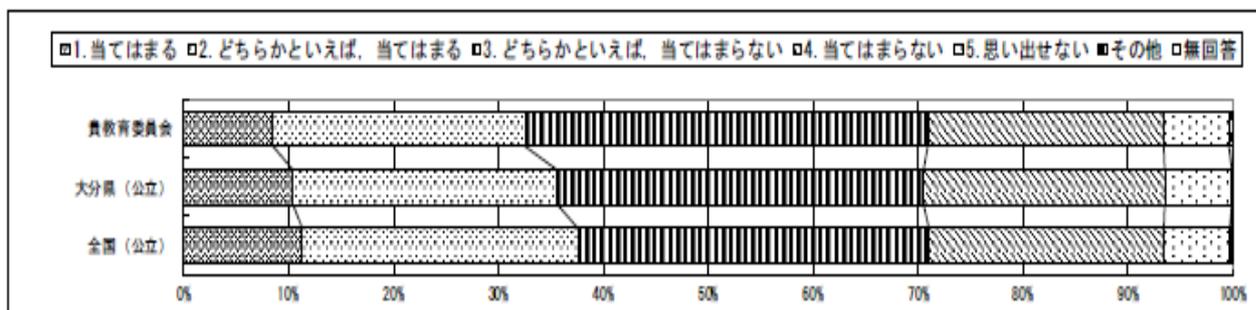


\* 2年前に比べ肯定的回答の割合が低くなっています。コロナ禍で地域行事も減少していることが要因のひとつと捉えていますが、地域との関わりについて総合的な学習のあり方やコミュニティスクールの取り組み方を見直していく必要があります。各校で再度由布学の目標を確認するとともに、地域の課題発見・解決の学習や魅力発信の取組をしていきます。

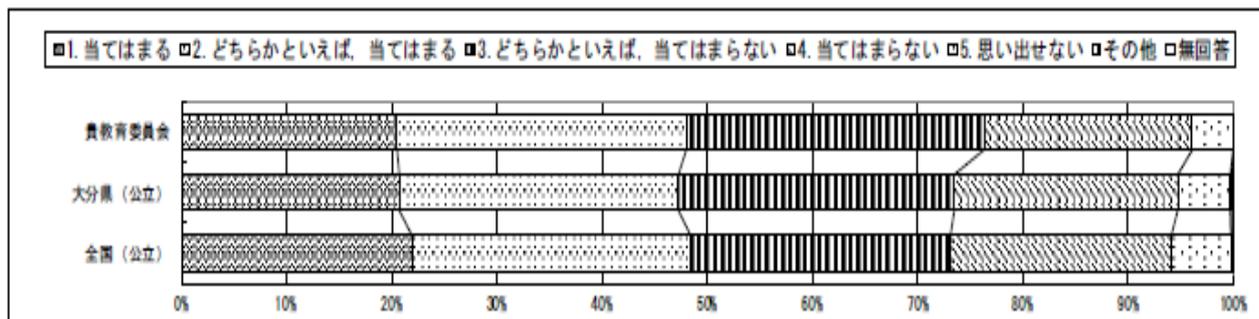
Q 1 4 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。



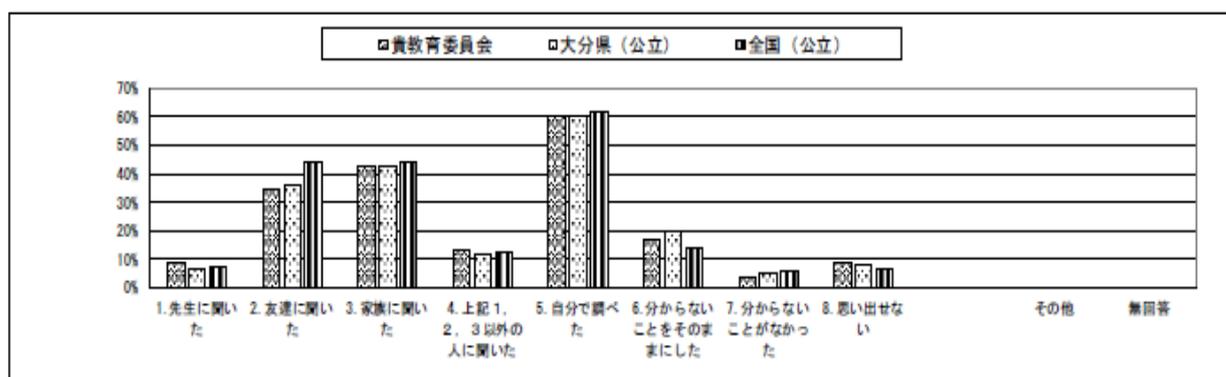
Q 1 5 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。



Q 1 6 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。



Q 1 7 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか。



\*新型コロナウイルスに関する質問項目として新たに加わったものです。休校期間中、勉強について不安を感じていた生徒は約65%。全国や県よりも高いです。また、「この期間中も計画的に学習に取り組んだ」生徒は約3割、「規則正しい生活を送った」生徒は約5割と小学校6年に比べその割合も低かったです。今一度、生活リズムを整えるための取り組みや計画的に自学自習に取り組むことの重要性を進路学習等を通して確認する機会を各学校において設け、見直していく必要があります。

## (2) 全国学力・学習状況調査の学校質問紙からわかる状況

各校より出された回答の中で、成果及び課題と思われる点に絞って分析しました。

### ①成果とみられる項目

<小・中共通>

- 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。(小 100%、中 100%)
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(小 75%、中 100%)

### ③ 課題として考えられる項目

<小学校>

- △地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。(小 75%/県 87.3%)

<中学校>

- △調査対象学年の生徒に対して、前年度に、本やインターネット、図書館資料等を活用した授業を計画的に行いましたか。(中 33.3%/県 42.0%)

### ③結果を踏まえて

<小・中共通>

- 今後も、「総合的な学習の時間」において各教科で身に付けた力を生かしていく視点を持ち、由布学(幼・小・中・高)に取り組んでいく。
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、今後も児童生徒が互いの考えを深めたり、広めたりすることができる課題解決的な展開の授業を仕組んでいく。

<小学校>

- 幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で児童の学びや成長を支えるとともに学校を核とした地域づくりを目指して様々な取り組みを行っていく。

<中学校>

- 各教科のどんな場面でタブレット端末の活用方法があるかについての研修や図書館資料を活用した授業を各教科や総合的な学習の中で実施する。

### 3 今後の「学力向上」に向けて

#### (1) 由布市の取組の重点に加え、定期的な補充学習を行うこと

小・中学校ともにこれまで補充学習等を中心とした取組を実施してきました。その取組の成果が全国学力・学習状況調査結果からもみてとれます。しかし、昨年度末に実施した由布市独自調査結果と大分県学力学習状況調査結果と比べると、教科あるいは領域によっては、依然課題が残っている部分があることも確かです。

このことから、今後も定期の補充学習を継続実施するとともに、各校で実施した分析結果を基に、各教科における組織的な授業改善をさらに進めていきます。

#### (2) PDCAサイクルを充実させること。

分析した結果を、改善に生かさなければ意味はありません。今年度も学校ごとに調査結果を分析していますが、その後の取組にどう生かしていくのか、市・学校が一体となってその検証を行っていきます。検証する際の一つの手段として、年度末に実施する由布市独自調査も活用していきます。2学期以降の取組についての成果や課題を再確認していきたいと思えます。幸い、調査結果ではよい兆しが見えてきています。今後ますます、授業が充実するよう取組をすすめてまいります。

気になるのは、年度によって傾向が大きく変わっていることです。学年単位ではなく、学校全体で組織的、継続的に様々な取組を行っていきます。

#### (3) 学校生活を充実させること。

学校生活を充実させるためには、学習面・生活面の両面を充実させる必要があります。今後、特別活動や道徳を充実させていくことで、知・徳・体バランスのとれた児童生徒の育成に一層取り組みます。

\* 中学校では3校が共通して取り組む内容を下記のように設定し取り組んでいます。また小学校から取り組める内容については、小学校も共同歩調で取り組んできました。

内容の骨子としては、

～生徒と授業の目標や流れを共有するために～

① 新大分スタンダードに基づく授業改善（小学校兼）

② 児童・生徒による授業評価の導入（小学校兼）

③ 組織的な家庭学習の研究（小学校兼）

～世代交代期に対応した人材育成を行うために～

④ 3中学校合同教科部会の実施

⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承

～小学校独自プロジェクト～

⑥ 低学年から確実に力をつけていくための「基礎基本系統表」に基づく学力定着

上記の内容を、推し進め学年間や学校間や教科間で極端な結果の差が出ないようにしていきます。